

特集
第1部

第三者認証制度・ 審査登録機関への提言

過去三回の巻頭インタビューより

一橋大学大学院教授 谷本寛治氏のインタビュー発言ポイント (Vol.13 CSRの視点から)



企業の社会的責任は、製品・サービスのアウトプット 活動プロセス全体にかかわるもの

・1990年代の地球環境問題を契機に、社会の厳しい目が企業に注がれはじめ、「企業はその活動プロセス全体に社会的責任を持つべき」という議論へ発展した。
・企業に対する評価手法は、従来の売上、利益率をはじめと

する財務データに基づくものから、社会的責任への取り組みも考慮に入れた動きへと変化しつつある。

・企業活動において社会的責任がプロセス全体に及ぶと考えることで、責任を追うべき対象は顧客はもちろん、サプライヤー、地域、従業員、株主などへと広がってくる。つまり、CSR

早稲田大学教授 棟近雅彦氏インタビュー発言ポイント (Vol.11 QMSの視点から)



社会から真に必要とされるISO9001をめざし、 審査登録機関・登録組織が制度の本質を理解し

・1980年代後半、バブル崩壊による景気低迷で、日本の多くの企業がコスト重視の経営に軸足を移していく中、ISO9001が登場し、企業の視点を再び品質へと向けさせた。この点はISO9001の成果の一つである。

・第三者認証制度の価値は、第一者・第二者監査にはない「客観性・公平性」であり、社会に認知されるために最も大切な部分である。ただ、審査において客観性・公平性を追求し過ぎると、ともすれば「文書化ができているかどうか」という規格の表面をなぞった形式的な審査になる恐れがあるた

筑波大学大学院教授 椿広計氏のインタビュー発言ポイント (Vol.12 EMSの視点から)



ISO14001環境マネジメントシステムは企業が社会的 審査登録機関はコミュニティの立場に立った審査を

・ISO14001は、社会の中で企業が責任・役割を果たすための仕組みであり、社会の支持なしには存続できない。つまり、環境マネジメントシステムは社会のための仕組みと位置付けることができる。

・ISO14001自体は国際規格としてかなり熟しており、今後の課題は社会全体がISO14001の進め方に関するベストプラクティスを十分に積み上げ、成功企業の情報を共有することである。

・ISO14001は社会と向き合った規格であるため、「きちんと

ISO NETWORKでは、ISOマネジメントシステム及びJQAの今後の審査のあり方を考える特集を、4回シリーズで展開しています。今回はまとめとして「社会から真に必要とされる第三者認証制度の確立に向けて」と題し、企業・消費者団体に第三者認証制度への期待・要望についてお話を伺うとともに、JQA審査の基本姿勢について紹介します。

特集第1部では、社会・企業の関係から見た第三者認証制度のあり方について再確認の意味で、通年特集第1回から第3回の巻頭インタビューにご登場いただいた学識経験者の方々の発言をレビューします。

だけでなく、

とは、多様なステイクホルダーとの関係をしっかり認識することなしにはあり得ない。

・CSRとは簡単にいうと「企業活動のプロセスに社会的公正性や倫理性、環境や人権などへの配慮を組み込み、ステイクホルダーに対してアカウンタビリティを果たしていくこと」である。

・CSRに取り組む際は、「自社に求められる役割」「キーとなるステイクホルダーは誰で、どのような関係を構築すればよいか」「自社に関わる社会的な課題に対して、どう対応すべきか」という自らのあり方を問い直す作業が必須であり、かつ情報を正確に各ステイクホルダーに開示していく必要がある。

高めていくことが大切

め、十分な議論が必要。表面をなぞっただけの審査スタイルが横行すれば、取得のみを目的にしたパスポート的な認証を促しかねない。

・第三者認証制度が社会に広く受け入れられるためには、制度に関わる者(審査登録機関や認証登録企業)が、制度の

本質を正しく理解し、社会に対して責任を果たしていくことが重要である。審査登録機関は、審査の質を高めること、認証登録企業は、自らの品質を高めることが必要になってくるだろう。

責任・役割を果たすための仕組み。

運用されているか」という透明性の観点から第三者認証制度は必要で、審査登録機関の役割は非常に大きい。審査の透明性・信頼性を確保するために、認証を取得した企業の間で環境マネジメントシステムの「質」に関する競争環境が生まれるような社会になればよい。

・審査登録機関の審査員はステイクホルダー、つまり企業を生かしている「コミュニティの立場」で審査を行う意識を持つことが大事。ISO14001の審査では、企業と審査員は協調関係ではなく、「企業対コミュニティの代表者」という緊張関係であって構わないし、むしろそうあるべきである。